



発行者 楽しい株式会社
 住所 北九州市若松区向洋町10番1
 北九州エコタウン実証研究エリア内
 Tel 093-752-5300 fax 093-752-5303
 E-mail ceres@fun-c.jp URL http://www.fun-c.jp

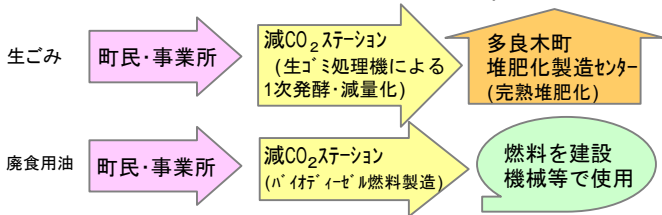
ハチドリ通心(信)
 2010年5月号

熊本県多良木町での取組報告 ~生ごみの再生利用で町を元気に~



熊本県南部、球磨川と球磨焼酎で知られる人吉・球磨地方に位置する多良木町では昨年の8月より今年の3月までの約8カ月間、モニター世帯を対象にした生ごみ、廃食用油のリサイクルを行い、廃棄物・CO₂・コスト削減に繋げていく取組が行われました。

(経済産業省 平成21年度環境配慮活動活性化ビジネス促進事業 事業主体：NPO法人九州環境保全循環システム)



武道館、中央公民館、消防団詰所の3か所を減CO₂(ゲンコツ)ステーションとし、減CO₂(ゲンコツ)宣言を行った町民・事業者の方が生ごみ、廃食用油を持込みました。



持ち込まれた生ごみ量と削減されたCO₂量をステーション3ヶ所と多良木町役場に掲示をし、見える化を行いました。さらに、生ごみ、廃食用油1回持込みにつき1ポイント(10円相当)を付与し、50ポイントで500円分の地域商品券と交換できる仕組みとしました。



ゲンコツ
減CO₂ボード



ゲンコツ
減CO₂ポイントカード

<事業の実施で活躍したハチドリ>



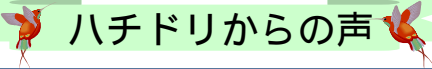
多良木町減CO₂モニター(多良木町参加住民、事業者)
 NPO法人九州環境保全循環システム(事業運営・管理)
 多良木町役場(指導、監督)
 シルバー人材センター(減CO₂ステーション管理人)
 多良木町商工会(地域商品券発行)
 多良木町堆肥化センター(堆肥原料の受入)
 熊本県立大学(アンケート分析)
 九州経済産業局(指導、監督)
 楽しい(株)(企画、機器の提供)

結果概要

平成21年8月3日から平成22年3月31日までの8ヶ月間にわたり、200世帯の町民の方と、17の事業所に参加していただきました。

- 生ごみ；
- 延べ持込み世帯 10,868世帯
(生活系 10,241世帯/事業系 627件)
 - 持ち込まれた生ごみ量 31,384kg
(生活系 25,887kg/事業系 5,497kg)
 - 削減されたCO₂量 1,011kg
(LCA手法を用いて、従来の収集・運搬・焼却処理と比較した場合のCO₂削減量)
 - 経費削減額(32.4/kgとして) ¥1,016,841
 - 堆肥センターに運搬された堆肥原料 2,130kg
- 廃食用油；
- 持ち込まれた廃食油量 約450L
 - 製造されたBDF量(バイオディーゼル燃料)約300L
 - BDFの使用用途；地元建設会社の建設用機械で使用

ハチドリからの声



☆参加いただいたモニター町民の方の声☆

- 前は生ごみを燃えるごみに出していましたが、今では燃えるごみの袋が軽く少なくなった。減CO₂ステーションに出すようになって、いかに生ごみが多かったのかと考えさせられた。
- 減CO₂モニターになってとても良かったと思う。なぜかという、我が家の生ごみの多さに気づいて、どうしたら生ごみを減らせるか、家族で考えるようになった。
- 家から生ごみの臭いがしなくなったので良く出しに行くようになった。

☆多良木町役場 町民福祉課長☆

今回の減CO₂事業を通して、モニターの方の分別やリサイクルに関する意識の向上を感じた。町としても、今回の事業で得られた貴重なデータや経験を参考にしながら取組を進めていきたい。

☆NPO法人九州環境保全循環システム 理事☆

本当に多くの方の協力を得ることが出来、無事、事業を終了することが出来ました。心からお礼を申し上げます。是非、多良木町の今後に活かしてもらいたいと思います。

☆専門家からの総評☆

(熊本県立大学 環境共生学研究所 篠原研究室)

- 住民の参画協力によるものだが、CO₂の可視化という視点が盛り込まれ、生ゴミの搬入の動機付けの一要因ともなっている。さらに可視化と換金性が連携しており、自身に返ってくることを再認識できる点と、自治体のコスト削減分が商店街や住民に還元されることが重要なポイントとなっている。
- アンケートの分析を行った結果、住民の大半が環境のために何かをしたいと考えていることがわかった。今後、ゴミ袋や、処理費用が有料化となる中で、先進的な優良事例だと思われる。その根拠として、参加した住民の8割が前向きに捕らえており、自分でゴミを出さないような工夫をし始めるなど、総量の減少にも貢献しているといえる。行政主導とも見られがちな内容であったが、参加住民のアンケート結果では、取り組みの継続と、その意義が住民に浸透し始めているものと考えられる。
- 小規模自治体にとって、利用しやすいシステムにするための改善点を示すことにつながり、システムのさらなる見直しとより効率的な運用が促され、各市町村における3R推進政策の一助として貢献できると考える。
- 結局、ゴミ削減は、排出者である住民の意識によるものであるが、住民の意識醸成のための仕組みづくりとして、本システムは、環境・経済・社会の面において、汎用性が高く、自治体財政運営が厳しい小規模の地方自治体において、効果を発揮するものと考えられる。

*ハチドリ通心は楽しい株式会社のホームページをご覧ください。
 URL : www.fun-c.jp/ をご覧ください。(中神が担当しました。)